



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 6月号

令和 4年 5月 31日
横浜市立青木小学校

ダブルバインドの夏を前に

校長 永野 美雄

ダブルバインドという概念があります。心理学で使われる言葉で、「二重拘束」と訳されることがあり、矛盾する要求を同時に受ける状況を指します。人はこの状況下に置かれるとストレスを感じます。

さて、連休明けの新型コロナウイルスの感染の状況は思っていたよりは落ち着いていて、マスクについても屋外では周囲の人と十分な距離があれば必要ないといった専門家の提言があるなど、本格的な夏を前に新たな動きがあります。

とは言うものの神奈川県内で1000人を超える新規感染者が続いています。これからは、気温上昇に伴いコロナ版のダブルバインドが発生する季節を迎えます。すなわち感染防止と熱中症予防のダブルバインドです。

マスクは飛沫感染を防ぐために必要ですが、熱中症の観点からは外すことが望ましいとされます。コロナ禍での3回目の夏となりますが、毎年、矛盾する要求に大人も子どもも戸惑います。このダブルバインドを乗り越える方策をわかりやすく伝えるニュースを先日耳にしました。「3つのとる」、すなわち「マスクをとる、距離をとる、水分をとる」ようにすることで、感染に気を配りながら熱中症を防ぐよう呼びかけていました。学校においてマスクを外す場面は、登下校時、休み時間、給食、体育の授業が考えられます。登下校時に十分に距離をとることが難しい場合は「マスクを外したら会話を控える」など、状況を見て対応していきたいと思います。

もう一つの感染防止と熱中症予防のダブルバインドが、換気と冷房です。校舎は断熱材が使用されていないため、基本的に夏は暑く、冬は寒い建物です。今から12年ほど前に教室の冷房化に着手し、2013年度に横浜市立学校では普通教室の冷房化が完了し、過酷な暑さから解放されました。しかし、コロナ禍の夏は、換気が求められます。横浜市では常時窓を開け換気をしながらエアコンを稼働させる方法をとっています。教室のエアコンに大きな負荷がかかり続けるため、故障しないことを願うばかりです。

そもそも学校教育そのものが感染防止とのダブルバインドになっている側面があります。「友達や先生、地域の方との触れ合いを基軸とした学校教育」と「3密」がともすると対立するだけに、「給食は前を向いて話をせずに」「スポーツフェスティバルは2回に分けて」「プール学習は1回ずつ」「宿泊的行事は県内一泊で」等々、苦渋の対応を続けなければなりません。できるだけ、我々が大事にしている教育活動を実施していけるよう、工夫を重ね、ダブルバインドが両立するぎりぎりのラインを見出す努力を続けて、この局面を乗り越えていきたいと思います。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いします。